

01

12月 2020

天国での力チャアシ、沖縄のおばあの召天

by NCM2 CHOIR

全4page

290 「野の花を見よ」と

[琉球] Arr. TSUHAGU TENDA

: AKIRA HAGIUDA, 1953-
p. KAZUE SATO, 1926-

=約88 C G7 C , C G7 C G7

1 「野のはなーを 見 - よ」と
2 「そらのとりを 見 - よ」と
3 「ひとをあーい せ - よ」と } 主イエスのた も
4 「平あんなれに あ - れ」と

C G7 C , C G7 C

つみに死せる わ - れ ら みこえ聞 - き ぬ
十字架あおぐ わ - れ ら あがなわれた り
平和をつくる わ - れ と なしたま - え り
主をはいする 日 - ま で イエスにつ - か えん

北カリフォルニアのサンフランシスコ近郊の教会で一緒にいた友人から電話がありました。教会員の84歳の勝子さんがこのところ、身体の具合が悪く、ひとり住まいのお宅から、娘さんの家に移っているということでした。いつも沖縄出身の勝子さんは働き者で昼間は、たいてい庭で、菜園をやっていて(そのゴーヤ畑はすごいです)夏には教会にその庭で採れた夏野菜をいっぱい届けてくれたり、庭仕事に励んでいた、働き者の沖縄のおばあでした。

その直後、彼女は心臓で、ステントを入れる手術のために入院したと知らせが来ました。前にもステントを入れたことがありましたから、ステントを入れるだけであつたら、そんなに心配はいらないと思っていたところ、すぐ退院できるとの知らせがあつたと思ったら、退院予定のその朝に今度はストローク（脳溢血）を起こしたというニュース。

しかも続いてきたニュースは半身不随になったこと、そしてもう医者の手にはおえないから、ホスピスケアに入るという、悲しい知らせでした。

病院ではコロナ禍のために、誰も面会に行かれないことから、娘さんのお家に引き取って、ホスピスケアをやってもらうことにしたそうです。そして、もう長くないというではありませんか。

前の日曜日には朝も夜もズームでの聖書のクラスに出席していたということでした。次の朝、親しい友人がコロナ禍だから、会いに行くこともできないと思っていたのが、友人に勧められて、その二人で、賛美をしに行きたいと娘さんに許可をもらつたと言ってきました。勝子さんにとって娘のような存在の彼女ですから、ご家族も大喜びして迎えてくれるというのです。

その友人と私はラインで繋がっているので、それなら勝子さんの家から実況放送をラインでしてくれるよう頼みました。その日のお昼ごろだというので、待機していました。彼女の顔が映し出され、教会の友人二人が彼女の好きな沖縄のメロディの聖歌、“野の花を見よ”と、やはり沖縄の賛美、“みんなで賛美しよう”を歌い、口サンゼルスにいながら、私と夫も参加させてもらいました。



▼▼音声はこちらから▼▼

https://www.sanbi.us/here/wp-content/uploads/2020/12/07ec94daa08e815d4f41c6b9704b750e.mp4?_=1"

彼女の顔は目こそ開いていませんでしたがとても穏やかで、「勝子さん、勝子さん」と声をかけた私達二人の声に反応し、友人が萎えていない方の手を握っていたところ、手を握り返したというのです。

あまりにも穏やかで美しく、ああ。もう勝子さんは天国の門の前に行っているなど確信しました。そしてその翌朝彼女は召されました。

すでにその前の日には牧師先生ご夫婦がうかがい、娘さん家族とともに彼女を囲み祈り、賛美と祈りの時をもったということでした。

いつも礼拝の中、この“野の花を見よと”だけではありません。リズムのある賛美が始まると、礼拝堂の真ん中に出で、カチャアシを踊ってくれた勝子さん。きっと今は、天国で、踊っていてくれていることでしょう。天国では半身不随ということもないでしきから。

勝子さんは、私達まだこの世に生きている者たちに、天国への確信を教えてくれたのです。

「死は勝利にのまれてしまった。」 第一コリント 15：55

竹下弘美



折尾クリスチャンチャーチ

住所 〒807-0873

福岡県北九州市八幡西区藤原 2-12-6

電話&FAX 093-692-9200 (9:00~13:00) メール oriochurch@outlook.jp

URL <http://www.riochristianchurch.net>